

令和 7 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム和やか～なごやか～

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100111		
法人名	株式会社介護いわて		
事業所名	グループホーム和やか～なごやか～		
所在地	〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町大字一方井第7地割10		
自己評価作成日	令和7年11月23日	評価結果市町村受理日	令和8年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園に囲まれ、穏やかな環境の中に立地している。目の前の田んぼの稲の成長を眺めながら利用者は季節の移り変わりを感ずることが出来る。地域の住民の方々の協力体制も構築できている。老人クラブの協力により、隣接する畑で野菜を育てている。収穫した野菜は、食材として利用している。また、秋には収穫した野菜を使い、老人クラブと合同の収穫祭を行い交流している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は岩手町一方井地区の田園風景が広がり、民家とも隣り合わせの場所に立地している。開設から10年経過した事業所であるが、開設当初から地元の地域自治振興会とは、利用者の安全、地域高齢者の防犯や災害対応等の協力体制を目的に、「地域の安心、安全に関する協定」を締結し、事業所の緊急連絡網には地域住民2名が登録されている。敷地内には地区老人クラブの方々と一緒に畑での野菜作りを行い、秋には収穫祭も行われ、手作りの南蛮味噌を提供するなど日常的に交流が行われている。また、岩手町の秋祭りには音頭上げや子供たちの駒踊りの披露など、地域住民との交流の場にもなっている。定期的に訪問診療医、訪問看護師、訪問歯科医、薬剤師が来所し、医療との連携が確保されており、利用者、家族の安心につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年2月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月一回ミーティングで理念を確認する場を設けており、共有し、実践につなげている。	現在の会社の理念は5年ほど前に代表者が代わった際に変更されたもので、事務室、玄関、ホールに掲示し、毎月のミーティングでも唱和し、共有されている。管理者は、定期的に職員個々の理念に対する思いの擦り合わせの機会を持ちたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	運営推進会議、施設行事へ参加いただく事で地域の方とつながりをもっている。老人クラブの方々が野菜の苗を植えてくださり、その野菜で老人クラブと施設利用者との収穫祭を行い、交流をもっている。	開設時から地域の方々の理解、協力で事業所が支えられている。敷地内の菜園では地元老人クラブの方々と一緒に野菜などを育て、秋の収穫祭では利用者が調理に参加し、地域の文化祭には作品を出展している。運営推進会議のメンバーがサンタクロース役でプレゼントを配ったり、時には、昔話等を披露するボランティアの来所もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等の場で認知症についての相談をうけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者本人、ご家族も交え運営推進会議で施設の取り組みを報告し、そこで挙げられた意見を共有しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヵ月ごとに定期開催している。委員からは地域のボランティアの情報、老人クラブと一緒に畑で育てる野菜の種類の相談や育てた野菜類を地元の子ども食堂にも提供しようとの提案など、積極的な意見交換が行われている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加いただき、施設の実情やサービスの取り組みを伝えられている。また、小さなことでも相談、協力できる関係を構築している。	運営推進会議委員として地域包括支援センターの職員が出席しており、事業所の待機状況や入居希望者の情報交換のほか、介護度の変更、更新などについて、ケアマネジャーが随時担当課と一緒に becoming 対応している。生活保護受給の利用者には担当職員が面会に来所し、権利擁護制度を利用されている利用者にも適時、担当者が訪問してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束しないケアの実践のため、年2回の職員全体の研修、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を開催している。また、現在、身体拘束者ゼロである。	委員会は3ヵ月に1回開催し、オンラインによる研修を受講し、受講の都度所感を取りまとめ職員全員で振り返っている。転倒リスク対応として、居室に離床センサー、車椅子座面にセンサーを使用している方がいる。危険防止、制止の声掛けが聞かれる場面では、定期的にスピーチロック等の確認、振り返りが必要と捉えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての研修を行い、虐待が見過ごされないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修にて学ぶ機会を得ている。必要性が出た時は関係各所と連携を図り支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	対面・電話等で理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や、施設へ来所された際、ご家族の要望を伺っており、利用者に関しては、お茶の時間などリラックスした状態で要望を伺い運営に反映させている。	利用者の家族には、2ヵ月ごとに担当者による行事や活動の様子などをお知らせする「お便り」を作成し、法人、事業所広報誌と合わせて送付している。家族には運営推進委員として出席いただいているが運営に係る意見はない。家族が面会に来所した際や通院同行時、電話応対時に意見や要望を聞くよう努めている。体調の変化等があれば、随時電話等で家族に連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングに意見交換を行うだけでなく日々の申し送り等、日常的に意見交換できる体制を作っている。	毎月のミーティングのほか、日常の申し送りなどでコミュニケーションが取れている。職員は年2回人事考課、目標管理のヒアリングを実施しており、個々の目標達成状況などを確認している。スキルアップや研修等の希望に対応している。手すり設置やパソコン等の機器の提案を具体化し、事務の効率化にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課を行っている。資格取得希望者のサポートをおこなっている。就業時間帯の相談に応じている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部での研修機会は減っており、一人ひとりの職員の希望の研修参加はできていない。必要最低限の研修は施設内で研修できるように計画している。(オンライン研修)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修先で同業者と交流できる機会はあるが、ネットワークの構築等、相互の活動を通じ質の向上を図れる取り組みに発展できていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	担当職員を中心に各職員が信頼関係構築に努めている。また、定期的にモニタリングを開催し本人の希望や不安などを共有し関係作りの参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安、困りごとを伺い、施設へ望むこと、本人らしく暮らすための情報を共有し、関係作りに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回面談、アセスメントにより、本人・家族の意向、課題をふまえ支援を検討、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の残存機能を活かし利用者間で助け合える関係が構築できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族も支援者の一人として継続的に関わっていただけるように情報を共有し、必要に応じて出来る支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域のお祭りの見学を通し、馴染みの場所や人と交わる機会を提供している。	岩手町内のお祭りの際には、音頭上げや駒踊りが事業所を訪問し、利用者の楽しみとなっている。町内の一方井城址公園でのお花見や田んぼアート、紅葉狩りなどに毎年出掛けている。町立図書館が毎月巡回し図書の貸出しをしていただいている。毎週面会される家族もおられ、家族と一緒に馴染みの店での外食、買い物を楽しんでくる方もいる。秋には地域住民との収穫祭も楽しみの行事となっている。	

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性に配慮した席順、協力して行えるレクリエーションや作業を提供することで、孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、地域資源の1つとして、いつでも相談できる場であることを伝え、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタリングの際に本人の希望、意向を伺い、できるだけ達成できるように検討、対応している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。言葉による意思確認が難しい方は、表情、仕草のほか、家族からの情報や定期的実施するモニタリングで出されている居室担当者、ケアマネジャー、その他の職員の意見を通し本人の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面談の際、またその後も本人だけでなく家族からも情報収集し、把握に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	残存機能を活かし、自立した生活が送れるように現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングやカンファレンスを開催し、支援者の意見を広く取り入れ、現状に即した計画を作成している。	新規の利用者は、3か月の期間でプランを設け、以降6か月ごとにモニタリングを行い、本人、家族の意見をもとに介護計画を作成している。家族にはモニタリング会議録を提供し了解をいただいている。年1回、主治医、訪問歯科医、薬剤師、訪問看護師からも意見をいただき、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過の記録の他に、申し送りノートでも大事な内容を共有し、ケアや計画書の立案に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々ニーズに対応できるように日々の様子、変化を捉えられるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方の支援を受け、野菜作りを行い、その野菜を使って利用者が調理したものを一緒に食べる等、地域の方と楽しむことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望する医療機関と連携を図っている。定期、変化時、主治医へ報告、指示を受けている。	ほとんどの利用者が月2回の内科、月1回の精神科の訪問診療を利用している。外部医療機関を利用している方もいるが、それぞれの希望に沿った医療機関を受診し、通院は家族対応を原則としている。訪問看護師、薬剤師が月1回来所し、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月一回訪問看護師の訪問を受け、報告、相談するほかに、日頃から連携を図り適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、スムーズに連携が図れるように報告書、電話での情報交換や相談に努めている。		

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居またはその後、状態に合わせて、意向の確認を行っている。必要に応じて主治医から病状の説明、施設で出来ることの説明を行っている。看取りを望まれた時は、訪問診療医及び訪問看護ステーションと連携しながら看取りを行っている。	入居開始時に意向を確認している。以降は、状態の変化に応じて随時主治医の指示を仰いだうえで家族に説明し、意向を確認している。看取りを希望している方はいるが、令和5年度以降看取りの実績はない。看取りを経験している職員は2人在籍している。	看取りを経験した職員が少ないことから、訪問診療医や訪問看護師と連携し、看取りに関する研修の機会を設け、今後の看取りの要請に対応できる体制づくりを進められることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命講習は全職員受講している。急変時の対応や、初期対応の訓練を行っている。事故発生時や急変時の反省点を活かし、次へのステップアップの課題意識を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方を含めた緊急連絡網があり協力体制を築いている。今松地区自治振興会と、協定を結び、協力体制を整えている。	毎年2回地域住民も参加した総合訓練を行っている。地域自治振興会とは、事業所開設時に「地域の安心、安全に関する協定」を締結している。利用者の安全、地域高齢者の防犯や災害に対応する協力体制が出来ており、緊急連絡網には地域住民2名が登録されている事業所、本部に食糧3日分、反射式ストーブなどを備蓄している。	職員が少ない夜間帯を想定した訓練を定期化し、避難方法や利用者の状況、地区自治振興会との協力体制を確認する機会とし、より一層利用者の安心、安全の確保が図られることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護などの研修を受け、人権尊重、プライバシー保護に努めている。不適切な言葉かけがきかれることもある。	プライバシー保護等に関して、計画的にオンラインによる研修を取入れ、全職員が受講している。利用者個々に、できていることに視点を置いた支援に努めている。聞こえが悪い方や夜間のトイレ誘導時などでは、文字カード等を用いて他の利用者に配慮した関わり方を実践している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食べたいもの、衣服の選択、日々の過ごし方等、自己決定できるように働きかけている。職員は本人の言葉を否定しないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな日課はあるが、その時々で本人の思いを優先して無理強いにならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類に関しては、利用者個人の好みがあるので本人の思いを優先するが、明らかに違和感がある時はアドバイスをしている。その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように必要に応じ家族の協力も得て支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員と一緒に食材を切ったり、盛り付け、片付けを行っている。	利用者の希望を献立に反映させ、季節の山菜や老人クラブと育てた野菜を調理し毎食手作りで提供している。誕生日など行事食提供の際には、利用者の手書きのお品書きが添えられる。町内の道の駅での外食を取り入れたり、誕生日にはおやつ作りも楽しみながら提供している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスだけでなく旬の物が食べられるようメニューを作成している。一人ひとりに合わせた形態で食事・水分を提供している。必要に応じて主治医へ相談し、一日の栄養が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、利用者に合わせ、歯磨きの声かけや介助を行い清潔保持に努めている。また、必要に応じて訪問歯科のフォローを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	身体機能や排泄パターンをふまえ、できるだけ、トイレで排泄できるように支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて声掛けや、誘導確認をしている。自分で汚れに気づき衣類交換される方もおり、周囲に配慮して対応している。それぞれの状態にあわせ、布パンツ、リハビリパンツ、パットを使用している。夜間のみオムツを着用される方、ポータブルトイレを使用されている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主食に麦を取り入れ、毎日乳製品を摂取している。毎日、リハビリ体操や歩行練習を行い、腸の活動を促している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている。	本人の希望にそって、シャワー浴対応、入浴日の変更、入浴の順番を変えるなど配慮している。曜日や時間は施設の都合となっている。	週2、3回、月曜日、木曜日以外の午前に入浴している。希望によりシャワー浴や日時を変えるなど柔軟に対応している。入浴時間は職員とのコミュニケーションや昔話を教えてくれたりと、楽しい時間にもなっている。ゆず湯を提供し、季節感を味わってもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自由に休息していただいている。安心して眠れるように室温や明るさには配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての薬の目的、副作用、用法、用量の理解は難しいが、情報が共有できるようにファイルを作成し、職員が見やすいところに置いている。申し送りノートや経過記録で薬の変更、病状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの残存機能、好みなどをふまえ作業を行っている。楽しみや気分転換できる行事計画を立案している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員体制次第では、一人ひとりの希望にそった外出支援は困難。季節を感じられる外出行事に参加していただいたり、時には家族に協力していただいで外出している。	職員の配置にもよるが、好天時には、事業所周辺の散歩や外気浴を行い、花が咲いている時期には、敷地内の花壇を見に行ったりする方もいる。家族の付き添いで外出や衣類を購入して来られる方もいる。法人内の事業所の協力で、全員でドライブ外出等に出掛けることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人の方は現金を手元に所持している。家族了承の下、希望があれば施設で立て替えて購入している。歩行が可能な方は、一緒に買い物へ出かけ希望の品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの希望時、電話をお貸しし、お話していただいている。耳が遠く聞こえない時は、間に入りお伝えしている。手紙が届いた際は、必ず本人に渡している。読めない場合は代読など支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温湿度には十分配慮している。冬季の寒さ対策として、トイレにヒーターを設置。エアコンの風が直接当たらない様調整など、不快・混乱をまねくような刺激がないように配慮している。季節が感じられる掲示物を一緒に作成し掲示している。	ホールには、天窓からの採光が確保され、エアコン、加湿器等で空調管理されている。食事や活動等で使用するテーブルのほか、大型のセンターテーブルにテレビが設置され、図書スペースもあり、大型のソファも配置されている。壁面には、新年の書初めや行事等で制作した装飾品が掲示され、季節が感じられるよう工夫されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ、テーブル席など、ご自分の好みの場所でくつろいで過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族との写真や、家族からのプレゼントは、目の届くところに置いている。	居室入口には、行事(節分)のイラストも掲示され、季節を感じられるようにし、また、自他の居室が判断しやすいよう名前を大きく掲示するなど工夫されている。室内には、エアコン、ベッド、加湿器、チェストが備え付けられ、家族写真やカレンダー、ぬいぐるみ、人形など配置し、思い思いの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内のベッドやタンスなどの配置は、個人の身体レベルに合わせて、転倒リスクを回避できるように配慮している。玄関には椅子を置き、靴の交換が安心してできるようにしている。		